

# 七越峠から桧原越え

【葛城第十一経塚(七越峠経塚山)】

古い峠越えの道をたどり  
西国巡礼の道・桧原越えで、  
西国札所の施福寺へ

和泉山脈の主稜線にある第十一経塚を訪れる。経塚へは和歌山県かつらぎ町側の四郷からが比較的近いが、ここでは大阪府側、七越峠の宿山に縁が深い父鬼から、登りごたえのある峠道でアプローチする。

父鬼バス停を降りると、そこに八坂神社と行場の観音寺がある。父鬼の由来を書いた案内板もあるので読んでおこう。しばらく父鬼川沿いをさかのぼる。乳滝不動尊、シェード入口の左手の鎖場の上に役行者像と続き、製材所手前で左の道に入る。道はやがて細くなり、林道となって林間に分け入っていく。やがてコンクリート敷の道から右に派生する道に入ると、七越峠への登り口がある。登り始めるとすぐに古い丁石があるが、しばらく登ると未舗装林道に出て林道歩きとなる。尾根を回り込んだところで林道から派生する右の道に入ろう。しばらく古道らしい道が続くが、やがて何度も林道に出たり入ったりする。登りつめると道標地藏と西行歌碑がある七越峠にたどり着く。茶屋跡の広場には七越峠を説明した石碑もある。

峠から南西に向かい、経塚のある経塚山へ、道路を歩いて往復する。四郷との分岐がある三叉路には西国札所三番粉河寺と四番施福寺を結ぶ桧原越えの道標地藏が立っている。経塚山の入口には葛城修験の道標があり、ひと登りで第十一経塚に登り着く。

峠に戻り、緩やかに登ると、宿山あたりで、右に七大龍王社への道が派生する。龍王社へは3分ほどだ。道路歩きはレーダーのある三国山を過ぎても続き、牛坂入口から山道となる。ここからは、「まきをさん」を示す道標地藏や丁石があり、古道の風情をたっぷり味わえる。分岐もあるが、道標にしたがえば施福寺へと導いてくれる。施福寺の山号、横尾山は、役行者が最後に経を埋めたので「巻尾山」と付いたとする伝承がある。バス停まではまだ20分ほど下る。

歩行距離 ◆ 約14km  
歩行時間 ◆ 5時間5分

体力レベル ★★★★★  
登山レベル ★★★★★



※歩行距離は水平距離、コースタイムは一般的なペースで歩いた場合の休憩時間を含まない参考タイムです。



- コース (Course)
- サブコース (Sub-course)
- 経塚 (Kōtsuka)
- 行場等 (国指定) (Itadaki, National Designated)
- 行場等 (国指定外) (Itadaki, Non-national Designated)
- 番号 (Number)
- 駐車場 (Parking)
- 寺 (Temple)
- 神社 (Shrine)
- キャンプ場 (Campground)
- トイレ (Toilet)
- 水場 (Waterfall)
- バス停 (Bus Stop)
- 滝 (Waterfall)

※実際の修行の道とは異なります。

## コース情報



父鬼バス停から少し登ると乳滝不動尊がある



道標地藏の立つ七越峠。西行の歌碑もある

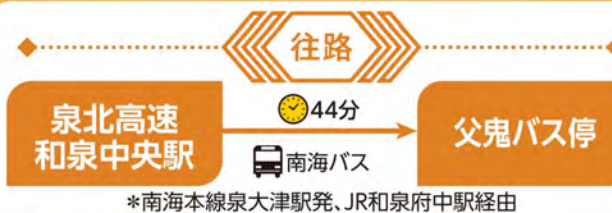


七越峠越え旧道の丁石。「さかの間十八丁」とある



西国巡礼道の桧原越えは粉河寺と施福寺を結ぶ古道

## アクセス



## アドバイス

本コースは登山となるのでトレッキングシューズで臨もう。七越峠までは林道が何度も交差、分岐する。和泉市の火の用心の黄色い標柱を頼りに進むこと。山上の道路に出たら、あとは迷うところはない。父鬼へのバス便は極端に少ないので、調べておくこと。横尾山からのバス便は土日が比較的多いとはいえ、やはり少ない。